経済論叢（京都大学）第177巻第3号，2006年3月

ネオコンの源流

——「ニューエイジャー」とピラミッド——

本　山　美　彦

はじめに

2004年の米国大統領選挙で，子ブッシュ（George W. Bush）が再選された。その背景には，いわゆるネオコン（Neoconservative）が，米国キリスト教右派（Christian Right）の取り込みに成功したことがあるといわれている。米国の南部と中西部におけるキリスト教右派（プロテスタントとカトリックの両派を含む，本稿〈おわりに〉で説明）や「カリスマ運動」（charisma movement，本稿第Ⅴ節で説明）の効用を思い浮かべれば，さもありなんとの思いを人は等しく持つ。

しかし，どのような経緯でキリスト教右派が多くの米国民の心を掴みえたのか。ネオコンがどういう手段でキリスト教右派を自己の陣営に引き寄せたのか，等々の問題については，いま1つ分からない点が多い。いまのところ，南部・中西部の米国民が急速に保守化したという事実だけが語られているにすぎない。しかし，この地域の米国民はなぜ保守化したのだろうか。日本人には想像もできないような茫漠たる広さを持つ田舎，イスラム教に匹敵するのではないだろうかというほどの宗教的な生活，こうした環境が人々の心を保守的傾向に向かわせたのかも知れない。しかし，それだけでは，なぜ，それがキリスト教右派なのかは分からない。

キリスト教右派が台頭してきた1970年代は，「対抗文化」（counter-culture）運動の全盛時代であった。つまり，ベトナム戦争の後遺症に悩む米国の若者た

ちは，既成の権威と文化に反抗していた。労働争議も相次ぎ，米国内で反企業意識が未曾有の高揚を示していた。そうした雰囲気に彩られていた1970年代の米国の若者たちは，ネオコンではなかった。にもかかわらず，共和党（Republic Party）のレーガン（Ronald Reagan）政権が，この時代の危機を乗り切った。途中，民主党（Democratic Party）のクリントン（William Clinton）政権があっただけで，長期的には，米国は共和党政権の天下が続いた。レーガン政権下，その後の父ブッシュ（George H. Bush）政権下で若者の「対抗文化」運動は下火になってきた。というよりも，彼らの多くが，高揚するキリスト教右派に吸収されるようになってしまった。そして，子ブッシュの2期目の政権を不動のものにしたのが，キリスト教右派の爆発的なエネルギーであった。

そうした流れがどのようにして作られたのかを，本稿は追求しようとしている。この稿は，ネオコンの前史としての，宗教的「ニューエイジ・ムーブメント」（New Age Movement）のシンボル＝ピラミッド（pyramid）を紹介する。「対抗文化」運動として，一時はブームになっていたこの運動は，最終的には，若者の多くの市民運動と同じく，保守に絡め取られてしまうのであるが，その理由を探るべく，本稿で，「ニューエイジ・ムーブメント」がどのようなものであったのかを説明しておきたい。「ニューエイジ・ムーブメント」は，「新時代運動」と訳すべきなのであろうが，これでは，なにをいっているのかがあいまいになってしまう。この運動は，「維新運動」として理解されるべきものである。この運動は，西欧中心史観を反省し，非西欧的な思考と行動様式を取り入れようとしたものである。しかも，非西欧的なものを単純に，神秘主義的に，あるいは，オカルト（occult）的に模倣するのではなく，そこに現代科学の目を通して，自分のものにして，旧い西欧を新しい社会に適合できる「現象的，精神的，思想的，社会学的重点移動」（a phenomenal, spiritual, ideological, and sociological shift）を実現させる「信仰的社会的運動」（a religious and a social movement）が，「ニューエイジ・ムーブメント」である[1]。本稿では，

1) "New Age or Old Occult?," (http://www.rapidnet.com/~jbeard/bdm/Cults/newage.htm).

これを単純にNAMと表記し，この運動に参加する人たちについては，原語の‘New Ager’をそのまま「ニューエイジャー」にした。

このNAMの理念は，もともとは，米国至上主義でなく，むしろその対極に位置するものであった。しかし，結果として，この運動は，「米国＋イスラエル」の路線に吸収されてしまい，親子ブッシュ政権の戦争政策を支持する勢力になってしまった。NAMの「ポピュリスト」(populist) 的色彩が，運動をそういう方向に転轍させた可能性がある。しかし，いまのところ確定的なことはいえない。

権力というものは，古今東西を問わず，自らを神格化，ないしは，伝説化させようとするものである。その際，民衆に根づいた神話や伝承を利用するという手法がつねにとられてきた。「テンプル騎士団」(the Temple Knights) や「フリーメーソン」(Free Masons) 伝説が，その時々の権力によってもっとも利用されてきたものである。

米国の国璽 (the Great Seal of the United States) もまた，フリーメーソンの伝説を利用している。国璽に使われているピラミッドは，フリーメーソンが愛用していたものだからである。

I　米国国璽のピラミッド

1970年代の「ニューエイジ・ミュージック」(New Age Music) の旗手で，ジョン・デンバー (John Denver)[2] というシンガー・ソング・ライターがいた。ニューエイジ・ミュージックとは，ニューエイジ哲学を音楽化したものである。

2) 本名は，ヘンリー・ジョン・ドイチェンドルフ・ジュニア (Henry John Deuschendorf Jr.) である。ジョン・デンバーは，1943年，ニューメキシコ州 (New Mexico: NM) に生まれ，1969年，シンガー・ソングライターとしてソロデビューした。1970年代に，「ロッキー・マウンテン・ハイ」，「太陽を背に受けて」などのヒット曲で人気カントリー歌手の地位を確立した。1985年にソ連 (当時) を訪問して，米ソの文化交流に尽力したり，1994年5月，ベトナム戦争終結後，米国の大物歌手として初めてベトナムで公演をおこなった。1997年10月，カリフォルニア州 (California: CA) モントレー空港 (the Monterey Peninsula Airport) から，自分の操縦する単発の自家用軽飛行機で離陸した直後に，海岸から約百メートルの海上に墜落して亡くなった (http://www.fmstar.com/movie/j/j0589.html)。

これは，イージー・リスニングや瞑想的でスピリチュアルな音楽を基本にしている。ニューエイジのミュージシャンたちは，現代のハイペースな生活に疲れた人々を癒すような抑制ぎみのサウンドを作り出した。そして彼らは，精神的なヒーリング効果や優越感を得るために，ノン・ウェスタン・ミュージックの音楽的要素を拝借することも多い。

この音楽で一世を風靡したデンバーが，1976年コロラド州（Colorado: CO）スノーマス（Snowmass）近郊の田舎に「ウィンドスター」（Windstar）という瞑想修行用の広大な道場を建設した。そこでは，ピラミッドがシンボルとして配置された。

NAMは，このピラミッドの建設から始まったといえなくもない。このピラミッドが，その後，「ジオデジック・ドーム」（geodesic domes）[3] として，全米にNAMの象徴として建設されていった。

ここに，NAMの象徴的性格を読み取ることができる。ピラミッドは，エジプト（Egypt）の専売特許ではない。ピラミッドは古代から世界各地で建設されている。米国では，ピラミッドは，建国精神を象徴するものである。NAMのポピュリスト的性格は，米国人の古い（もちろん，相対的な意味においてであるが，ほんの200年前でも米国人の脳裏には古いと映る）記憶に訴えたことにすでに現れている。

個人には「花押」がある。家族には「家紋」ないしは「紋章」（heraldic emblem）がある。同様に国家にもそれに匹敵するものがある。それが，「国璽」（こくじ）（the Great Seal）である。米国の国璽には白鷲（White Eagle）とピラミッドが描かれている。この点について，在日米国大使館がそのWeb

3）「ジオデジック・ドーム」（Geodesic Dome＝測地線ドーム）とは，一般に，球面に内接する三角形の面で構成された多面体構造を指す言葉として用いられている。空間において一直線上にない任意の3点で1つの平面を定めることができる。そこで球面上の任意の3点を頂点とする三角形の組み合わせで球面に内接する多面体を構成することができる。この三角形で構成された構造が，厳密ではないが，慣習として「ジオデジック・ドーム」と呼ばれている（http://fukuoka.cool.ne.jp/domefactory/ss01/ss01.html）。バックミンスター・フラー（Buckminster Fuller）は，この型の建造物を，1940年代末に発明した。

サイトに解説を掲載している。少し長くなるが，なかなか興味深い内容なので，さわりを紹介しておこう。ただし，このサイトに載っている文章は，日本語としてあまりできのよいものではないので，文体や助詞の使い方を変えてある。

「1776年の〈大陸会議〉（the Continental Congress）は，ベンジャミン・フランクリン（Benjamin Franklin，1706～1790年），トーマス・ジェファーソン（Thomas Jefferson，1743～1826年），ジョン・アダムズ（John Adams，1735～1826年）の3人に米国の国璽を決めるように指示した。この委員会と，さらに2つの委員会がデザインの作成に6年以上の年月を費やした。3番目の委員会がフィラデルフィア監督教会（Philadelphia Episcopal Church）の聖職者の息子であり，紋章学（heraldry）の権威であるウイリアム・バートン（William Burton）の協力を取り付けた。バートンは2つのデザインを考え出し，その1つをチャールズ・トムソン（Charles Thompon）が簡素化した。

鷲は米国の国鳥である。翼を広げ，爪を伸ばした鷲の頭上には，13の星を戴く栄光がデザインされている（13の数は最初の13州を意味している）。右の爪は，平和を象徴する13枚の葉がついたオリーブの枝を掴み，左の爪は，戦争を象徴する13本の矢を掴んでいる。オリーブの枝の方に向けられた白頭は，平和を願うことを意味している。鷲の胸を保護する13本の縞が入った楯は，国家を象徴している。楯の上部は議会を，白頭は行政府を，そして尻尾の9枚の羽は最高裁を表している。鷲の嘴（くちばし）のリボンは，13文字のラテン語のモットー，'E Pluribus Unum'，つまり〈多くの中から選ばれた1つ〉という意味である。

国璽の裏側には，ピラミッドが描かれている。ピラミッドは，強さと忍耐力を象徴している。そして，国璽の裏側のピラミッドは未完成である。それは，成長と完璧さを求めて，たゆまなく努力する姿勢を象徴している。ピラミッドの頭上には，栄光に輝く三角形の眼（All-Seeing Eye）がある。それは，永遠の神の眼であり，神聖なる神の導きを象徴している。そして，物質の上に精神が置かれるべきことを意味している。ピラミッドの頂点には，13の文字から成

る，ラテン語のモットー，'Annuit Coeptis' が書かれている。それは，〈神は我々との約束を歓ばれ給う〉という意味である。ピラミッドの底部には，ローマ数字で独立した年の1776（MDCCLXXVI）が記されている。その下に，'Novus Ordo Seclorum'，つまり，〈新しい世界の秩序〉（A new order of the ages）というモットーが書かれている」。

米国の通貨にも，神と国璽のデザインが記されている。

「米国のコインには神のご加護が書かれるべきだという多数の市民の請願を受けて，当時の財務長官，ソロモン・P・チェイス（Salmon Chase，1808～1873年）が，1864年，2セント・コインに，初めて 'In God We Trust'（我ら神を信ずるものなり）という標語を使うことを許可した。1955年に議会はすべての紙幣とコインにこの標語を使うよう指示した。1963年以降，すべての額面の紙幣にこの標語が使われている。

デザインの1部として米国の国璽を使った最初の紙幣は，1935年発行の1ドル紙幣である。以来，国璽は1ドル紙幣の裏側，つまりグリーン色の側に使われるようになった」[4]。

見られるように，米国の国璽には，現代米国の性格を象徴づけているキーワードが散りばめられている。

ここには，現代の米国の好戦派たちが多用する 'new'，'order'，'ages' がすでに使われていた。1970年代末の米国で流行した 'New Age'，'Emerging

4) http://usembassy.state.gov/posts/ja3/wwwh3money.html ちなみに，米国の紙幣は12の地区の連銀が発行しており，どの地区の連銀が発行したものかが分かるようにアルファベットでA～Lまたは数字で1～12が紙幣に印刷されている。これらは，肖像画がある面の左端に印刷されている。1966年以前の旧紙幣には，丸で囲まれた中にアルファベットが記されており，それ以降の新紙幣は，連銀の紋章の左上にアルファベットと数字が印刷されている。これら紙幣を発行している連銀と，対応するアルファベットおよび数字（括弧内に入れる）は以下の通りである。ボストン（Boston）連銀（Federal Reserve Bank）（A1），ニューヨーク（New York）連銀（B2），フィラデルフィア（Philadelphia）連銀（C3），クリーブランド（Cleveland）連銀（D4），リッチモンド（Richmond）連銀（E5），アトランタ（Atlanta）連銀（F6），シカゴ（Chicago）連銀（G7），セントルイス（St. Louis）連銀（H8），ミネアポリス（Minneapolis）連銀（I9），カンザスシティ（Kansas City）連銀（J10），ダラス（Dallas）連銀（K11），サンフランシスコ（San Francisco）連銀（L12）。鈴木隆一，（http://forexpress.com/columns/m2j/sd10.htm）。

Order' は，1970年代になって初めて流布した標語ではなく，米国が，建国以来，一貫して目指してきた理想である。イスラム原理主義者たちだけが古代のイスラム社会への復帰を唱えているのではない。米国のキリスト教右派もまた米国を建国時の精神に戻そうとしている。つまり，「新しい世界の秩序」の建設が，「米国民を強く」成長させる必須の条件である。権力者たちは，米国民につねに「神に選ばれた国」の国民であることを意識させるべく，様々なメディアを通じて一種のマインド・コントロールをおこなっている。

たとえば，映画制作者のジェリー・ブラッカイマー（Jerry Bruckheimer）は，米国政府が対外戦争をする決意をした節目節目に，映像で米国民の戦意高揚に貢献してきた。

2001年の9.11テロの直前には，奇襲攻撃を受けた米国民の怒りを喚起すべく，日本軍による真珠湾攻撃の非道さを（たとえば，日本の戦闘機による病院爆撃。実際にはなかった）執拗に描いた『パール・ハーバー』（真珠湾＝Pearl Harbor）がブラッカイマーによってリリースされた。それは，まるで，9.11テロを予め予想していたかのようなタイミングのよさであった。

米国によるソマリア（Somalia）介入で，米国民の厭戦気分を吹き払うべく，同じく2001年に『ブラック・ホーク・ダウン』（Black Hawk Down）が同氏によって制作された。ソマリアの惨状が報道され，米国民が途惑っていたまさにそのときに，この映画が上映されたのである。ブラック・ホークとは，ソマリア兵によって撃墜された米軍爆撃ヘリコプターである。そこでは，米兵の勇敢な戦いが賛美され，ソマリア兵士たちが，残虐行為を働く悪魔として描かれていた。

そして，ブラッカイマーは，明らかに子ブッシュの大統領選を応援する映画，『ナショナル・トレジャー』（National Treasure）をウォルト・ディズニー映画（Walt Disney Pictures）で制作し，大統領選挙年（the presidential year）の2004年5月3日，全米で封切った（日本では，2005年4月にリリース）。

ストーリー自体は，テンプル騎士団の財宝を，フリーメーソンであった建国

の父たち（the Founding Fathers of America）が，個人のものではなく，国民全体のもの（National Treasure）にすべく，ウォール街（the Wall Street）にある「トリニティ・チャーチ」（the Trinity Church）に隠し，それを歴史学者の仲間と投資家の一味とが捜索争いをするという，たわいないものであるが，そこには，米国を神格化する様々なコード（暗号＝code）が埋め込まれている。映画の観客は，神に守られた栄光の米国を賛美するように仕向けられている。

まず，1ドル紙幣の裏面のピラミッドは，建国の父たちの理念を込めた国璽の紋章であり，それは，フリーメーソンの紋章でもあったことがさりげなく語られ，映画ではその後に「独立宣言」（the Declaration of Independence）の条文が読まれる。これは子ブッシュのイラク侵攻を米国建国の理念の発露であると観客に思わせる効果がある。読まれた該当の節は，以下のものである。

「すべての人間は平等に作られている。創造主によって，生存，自由そして幸福の追求を含むある侵すべからざる権利を与えられている」。

「いかなる形態であれ政府がこれらの目的にとって破壊的となるときには，それを改めまたは廃止し，新たな政府を設立し，人民にとってその安全と幸福をもたらすのにもっともふさわしいと思える仕方でその政府の基礎を据え，その権力を組織することは，人民の権利である」。

「しかし，つねに一貫して同じ目標を追求してきたのに，権力乱用と権利侵害がたび重なり，人民を絶対専制のもとに帰せしめようとする企図が明らかとなるとき，そのような政府を投げ打ち，自らの将来の安全を守る新たな備えをすることは，人民にとっての権利であり，義務である」。

つまり，人民を抑圧してきたフセインの専制政府を倒した子ブッシュの行為は正しいと観客に印象づけようとしている。

映画では，主人公が盗んだ『独立宣言書』の裏面に，「三位一体」（Trinity）の紋章が，拡大鏡で見なければならないほど極小に描かれている。いうまでもなく，建国の父たちが眠っている「トリニティ・チャーチ」（Trinity Church）

の紋章である。トリニティ・チャーチのあるウォール街とブロードウェイ(Broad Way)の交差点は，英国植民地時代には，「ヘーレ街」(the Heere Street) と呼ばれていたこと，『独立宣言書』の裏面の暗号，「壁」とは，独立後に「ヘーレ街」から改名された「ウォール街」のことであること[5]，そして，『独立宣言書』を窃盗した主人公の罪を許す FBI（米連邦捜査局＝the Federal Bureau of Investigation）捜査官がフリーメーソンの紋章，「コンパスと定規」から成る「山」と「谷」の組み合わせを象った指輪をしていること，つまり，建国の父たちのフリーメーソンのメンバーが現在の米国の権力機構にも綿々と連なっていること，等々が暗示される。

伝説を象徴化（＝コード化）して，コードの謎解きに人々の興味を掻き立て，人々を一定の方向に誘導するという手法は，かなり，成功度の高いものである。これは，超ベストセラーになった，『ダヴィンチ・コード』(Brown [2003]) の人気がかなりの長期間持続したことからも明らかであろう。権力は，自己に有利な考え方をコード化し，人々の脳裏の奥底にそれを植え付けることに成功すれば，とてつもなく大きい政治的成果を得ることができるのである。映画，『ナショナル・トレジャー』では，伝説上の「聖なるもの」に連なる人脈によって，米国は建国され，現在の権力者もその正統な継承者であることが語られたのである。

II　ウィンドスターとガーベイ・センターのピラミッド

先述の，国民的人気歌手，ジョン・デンバーが，景勝地のコロラド州 (Colorado: CO) アスペン (Aspen) のスターウッド (Starwood) に移り住んだのは，1971年であった。歌手デンバーは，気に入って自らの芸名としたデ

5) ニューヨークにある 'Wall'（壁）という地名とは，オランダ人によって築かれた木材の壁を意味する。Heere とはオランダ語の壁のことである。オランダ人が後の「ニューヨーク」となる地区に入植し，「ニューアムステルダム」(New Amsterdam) と名付け，同じく入省していた英国人との間に紛争が絶えず，「アムステルダム砦」(Fort Amsterdam) を築いたのだが，この砦の周囲が木材の壁であった (http://www.nnp.org/newvtour/regions/Manhattan/wall-street.html)。

ンバーの山地（ロッキー山脈）の湖畔でキャンプをしていたとき，2時間以上もの長時間に亘る流星群に出逢った。彼は，琴座（the Lyra）の中の小さな煙の輪のように見える，環状星雲からこの地球に送り込まれた力が自分に乗り移った（憑依）ことによって，自分は生まれ変わり，新しい存在になったと信じた。彼が，終生そのことを信じ通したとは思われないが，この流星事件による啓示をきっかけに，ミリオンセラーになった「ロッキー・マウンテン・ハイ」(Rocky Mountain High）を作成し，その成功によって，NAM に突き進んだことは確かである。彼が語ったところによると，彼に憑依した「力」は，この流星を送り出した星雲に住む異星人であったという[6]。この流星に乗って聖霊が自分に憑依し，自分を「スターシード」(Starseed）の1人に変身させたと，彼は信じたがっていた[7]。

1976年，デンバーは，ジャック・ローゼンバーグ（Jack Rosenberg，別名，ウェルナー・エアハルト，Werner Erhard）が主催する EST（Erhart Seminar Training）を終了した。この EST は，「ニューエイジに向かう洗脳」(new

6) ジョン・デンバーの述懐によると，自分はオルフェウス（Orpheus）の生まれ変わりであると思おうとしていた。オルフェウスは，太陽神アポロン（Apollo）と人間の少女との間に生まれた男の子であった。オルフェウスは竪琴を奏で，美しく歌った。オルフェウスが死んだとき，叙情詩と音楽の神であった父アポロンは，地上に降りて竪琴を手に取り，天空に投げ上げた。これが琴座となったという神話がある（http://www.bekkoame.ne.jp/~nisenora/j-jd-index.html）。

7) スターシードとは，地球外の生命で，地球に送り込まれて人間の姿をしたものを指す。UFO（Unidentified Flying Object＝未確認飛行物体）の存在を信じる人たちにそうした思考がある。米国では，ブラッド・スタイガー（Brad Steiger）が UFO ウォッチャーとして有名である。スタイガーは，1936年2月にアイオワ州（Iowa：IA）フォート・ドッジ（Fort Dodge）に生まれ，UFO を含む超常現象に関する150冊を超える著作がある（http://www.bradandsherry.com/brad.htm）。邦訳としては，以下のものがある。吉野博高訳『青い惑星が危ない』，二見書房，1982年。秋山真人訳『アメリカ・インディアンのスーパーチャネリング—驚異の古伝的超脳技術』，騎虎書房，1991年。『ハリウッド・スーパーナチュラル—映画スターと超自然現象』，扶桑社ノンフィクション，1998年。『ペットたちの不思議な能力』，扶桑社ノンフィクション，1998年。

UFO 観察者の多くは，創造主が最後の審判を地球人に対しておこない，善人を破滅する地球から救うと信じている。スタイガーは，そうした考え方をアメリカン・インディアンから教えてもらったという。ただし，UFO 観察者がすべてそう信じているわけではない。異星人が地球を支配するために，軍団を地球に送り込んでいるのだと考え，ナチスなどがその異星人であるとする人たちもいる（「ブラックメンの示威活動」『UFOS & SPACE』，1982年8月号，http://www.asura.com/sora/bd12/msg/1031.html）。

age conversion brainwashing）と称するもので，集団を瞑想と興奮状態に導き，参加者に新たな創造的な覚醒を得させることを目指すものである[8]。デンバーは，このESTに強く惹かれ，この年，エアハルトや彼の支持者たちとともに，「ニューエイジ村」（the New Age Commune）をコロラド州スノーマス近郊に設立した。それは，1000エーカー（約4平方キロメートル）もの広大な敷地を持つものであった。

村には，「ウィンドスター」（Windstar）という瞑想道場が建設されている。デンバーとともに，ESTの訓練を終えた，デンバーのボディーガードにして右腕であった合気道（Aikido）の名人，トーマス・クラム（Thomas Crum）が，この道場の基本訓練の1つに，合気道を採用した。合気道こそが，単なる武術を超えた「宇宙精神と合体する道」（the road to a union with the universal spirit）であると称揚されたのである。瞑想道場に隣接して，巨大な合気道の道場が建てられた。クラムはこの道場の中で生活していた。

デンバー自身は，道場の外の，移動可能なピラミッドの中で起居していた。これは，銅製の柱でピラミッドの形状が作られ，ピラミッドの下部に9本の足を持つ屋根が葺かれ，その下でデンバーは瞑想をしていたのである。このピラミッド下の瞑想によって，彼は「力」（the power）を得，その力が自分を将来，米国大統領に押し立てるであろうと信じていた。彼の母も同じ信念を持っていたという[9]。

重要なことは，このウィンドスターの理事の1人に，先述のジオデジック・ドームの発明者，バックミンスター・フラー（Buckminster Fuller）がいたことである。

1970年代末のNAMの象徴としてピラミッドを建設したのは，ジョン・デ

8）エアハルトの最初のESTは，1971年10月，サンフランシスコのジャック・タール・ホテル（the Jack Tar Hotel）で，1000名の参加者を得て開催された。手法としては，座禅が取り入れられていた。ESTは，1991年に終了し，参加者の延べ人数は70万人であった（http://skepdic.com/est.html）。

9）Aho, Barbara, "The Council for National Policy," (http://watch.pair.com/cnp.html).

ンバーだけではなかった。デンバーの道場，ウィンドスターに近い地に，デンバーよりも持続的，かつ政治的に大きな影響力を示した，ウィラード・ガーベイ（Willard Garvey）が，もっと大規模にピラミッド施設を建設したのである。ガーベイは，旧来型のピラミッドだけでなく，フラー型のピラミッド（ジオデジック・ドーム）を多数，自己の施設内に建設した。

その施設は，カンザス州（Kansas：KS）ウィチタ（Wichita）の肥沃な農業地帯にある「ガーベイ・センター」（Garvey Center）である。この施設は，代表者のウィラード・ガーベイの名にちなんで呼ばれているが，正式には，「人間能力の国際的改善センター」（Center for the improvement of Human Functioning International, Inc.）である。ガーベイは，このガーベイ・センターの他に，多数のセンターを設立している。いずれも，米国の市民に大きな影響力を持つ機関である。それらを列挙すれば，「民営化全国センター」（National Center for Privatization），「国際管理サービス会」（International Executive Service Corp.），「公共利益全国法制センター」（National Legal Center for the Public Interest）等々である。とくに，「民営化全国センター」は，1983年に設立されたものであるが，米国における民営化路線の旗手になった重要な機関である。さらに，彼は，「国民政策評議会」（Council for National Policy）を1983年に設立した。これは，後に，米国におけるキリスト教右派のもっとも影響力のある機関となり，1991年に「政府改革評議会」（Council for Government Reform）に発展的に改組された。

このセンターの建造物は，「ニューエイジ」（the New Age）の精神を体現すべく設計されたものである。まず，巨大な白亜のピラミッドが建造されている。その横には，キラキラと光を反射する「ピラドーム」（pyradome）と呼ばれている，ジオデジック・ドームの輪が作られている。この輪は，8つのピラドームから成る。真ん中に1つのピラドームを配置し，7つのピラドームがそれを囲い込んでいる。これが，「ニューエイジの基本的シンボル」（the basic New Age symbols）である「ハディトとヌイト」（Hadit & Nuit）を表現している

とされる。

ここに，NAM の持つ基本的性格が顕わされている。「新」時代とは，「古代」に復帰することなのである。というよりも，古代の智恵を発見するために，近代の人間が忘れてきた人間の潜在的能力を現代に再生させることなのである。「対抗文化」運動として出発したはずの NAM が，最終的にキリスト教的右派に吸収され，それが，既成勢力打破のスローガンの下に，より右よりの政治運動に利用されるようになったのも，復古運動がいき過ぎたからである可能性が高い。

III　陰と陽による諸宗教の統合

「ニューエイジ」といい，「ハディト」，「ヌイト」といい，これらのキーワードは，アレスター・クロウリー（Aleister Crowley）の『法の書』（Crowley [1926]）を想起させる[10]。

『法の書』は，1904年，新婚旅行先のカイロ（Cairo）で，神「ホルス」（Horus）の使者である「アイワス」（Aiwass）という天使を通じて，クロウリーに与えられたとされている。アイワスが口述で自分に，1904年4月8日から3日間かけてその書を書かせたとクロウリーはいう。『法の書』は，オカルトそのものであるが，宗教界に，結構大きな衝撃を与えたものである。

『法の書』を得た1904年から既存宗教の時代が終わりを告げ，「新時代」（the New Age＝Aeon）が始まると彼は主張していた。

旧い時代とは，従来のキリスト教に代表されるように，人間が神に従うだけの奴隷の宗教の時代を指す。新しい時代とは，人間自身が自己の内なる神性，

10）アレスター・クロウリーは，自ら「黙示録」（the Revelation of St. John the Divine ; the Apocalypse）の「獣666」（the Beast 666）を名乗り，麻薬や性などの領域における魔術研究をおこなった。「汝の意志するところをおこなえ」（Do What Thou Wilt）という「テレマ」（Thelema）主義を唱えた。1875年英国生まれ，ケンブリッジ大学トリニティ・カレッジ（Trinity College, Cambridge University）中退，世界放浪中に仏教とヨガを学ぶ，1902年カラコルム（Karakorm）・K2登山（失敗），1904年，カイロで霊界から『法の書』を授かったと自称，1905年ヒマラヤ（Himalaya）・カンチェンジュンガ（Kangchenjunga）登山，1920年「テレマ僧院」（the Thelema Monastery）開設，1947年死亡（http://www7.ocn.ne.jp/~elfindog/Crowley.htm）。

つまり真の意志を発見し，神と合体できるようになる時代である。旧い時代を潰し，新しい時代を打ち立てるのが，人がとるべき使命であると彼は主張した。彼によれば，人には等しく神性がある。人は，修行によって，それを自覚できる。そのことによって，神と人との対話が可能になると彼はいう[11]。

「ヌイト」,「ハディト」は，いずれも，古代エジプトの神話と関連づけられた神である。『法の書』は，3つの章からなり，それぞれの章が，三位一体的な3つの神のそれぞれを代表している。

第1章は，星空の女神であるヌイトからの人類へのメッセージが語られている。この女神は，エジプト神話の「ハトル」(Hathor)，ギリシャ神話の「ビーナス」(Venus) に通じるものである。ヌイトは，愛，歓喜，繁殖，自由の担い手である。この女神は，すべての事物・精神を包容する象徴としても語られている。この第1章は，女神の時代としてイメージされている。内容的には，エジプト神話の女神「イシス」(Isis) が想起されている。つまり，もっとも古い人類の社会は，女神の時代であったとされる。

第2章は，神性を代表する太陽神，ハディトの説話である。エジプト神話の「オシリス」(Osiris) と関連づけられたものである。この第2章では，個々人の中に隠されている神性が語られる。ギリシャ神話の「ヘーデース」(Hades＝冥界の神) の性質も表現されている。この章は，男性の神のイメージとしても語られている。人間社会は，女神の時代の後に男神の時代が続くが，この時代も消滅してしまうというのである。

第3章は，ヌイトとハディトとの合一から生まれる「新しい時代の主」(the Lord of the new Aeon) を説いたものである。主とは「ホルス」であり，ヌイトとハディトとの子である。この新しい時代を実現させるホルスの力は，神性という内的エネルギーを実現させる「新時代」(Aeon) である。これは，世界征服を内容としている[12]。

---

11) http://www5e.biglobe.ne.jp/~occultyo/hounosyohtm.htm
12) http://www11.plala.or.jp/fukinya/demonindex3.html ; http://tim.maroney.org/↗

ウィリアム・ガーベイは，『法の書』を強く意識していたのであろう。この書にある陰と陽の組み合わせを理解することによって，現代社会は，古今東西のすべての宗教を統合的に理解し，人間の実践的能力を高めることができると，ガーベイは意識している。

『法の書』では，事実，夜空の星の女神と，昼の太陽の男神という陰と陽の世界が繰り返し語られる。「夜」と「昼」，「星」と「太陽」，「女」と「男」，いずれも対極の位置にありながら，互いが互いを照らしだし，互いの存在価値を確認し，互いが互いを必要とする。その集約がヌイトとハディトである。ヌイトとハディトという陰陽の合一によって，新しい生命が生まれるという理解の仕方は，世界の宗教を融合させるのに非常に都合のよい構造を持つ。ガーベイ・センターは，バビロン（Babylon），エジプト，ローマ（Rome）といった古代宗教や，カトリック，仏教（Buddhism），等々に見られた「神智論者」（Theosophist）を現代に復権させて，NAM に動員しようとしている（脚注9）と同じ）。

瞑想や修行を通じて，自己の内部の神性を引き出し，万物が互いを引き寄せ合って集合的な力を得るという構造を認識することによって，神との合一を人は目指すべきであるとするのが NAM である。この NAM の特徴は，オカルトと近代科学とを分離するのではなく，古代のオカルトの持つ意味を近代科学によって現代に再生させたいという希望をもっている点に特徴がある。（脚注1）と同じ）。バックミンスター・フラーのジオデジック・ドームを，ガーベイが重視するのもオカルトの持つ「科学性」を強調するためであった。

事実，フラーは，熱烈な NAM 運動の指導者であっただけでなく，ピラミッドだけでなく，多大の貢献を現代建築学にはたしてきた人である。フラーが自分たちの NAM に賛同してくれているというだけで，社会的に NAM は認知されることが非常に容易になった。

フラーは，「宇宙船地球号」（Spaceship Earth）（Gabel [1975]）という言葉

↘ CrowleyIntro/The_Book_of_the_Law.html

を編み出した人である[13]。これだけでも，NAMの存在を人々は意識してしまう。フラーは，人間の生と地球との共存の必要性をいち早く訴えた科学者であった。彼のジオデジック・ドームは，大円に見立てた全体が，三角形によって枠組みされていて，最小限の表面積で最大限の体積を包囲できるドームである。彼は，第2次世界大戦以前から，ガーベイ・センターが後に設立されることになるウィチタで，その実用化に取り組んできた（後述のウィチタ・ハウス）。

彼のドームは，「ベルヌーイ効果」（Bernoulli Effect）を初めて建造物に取り入れるという，建築上の革新を実現したものである。ベルヌーイ効果というのは，たとえば，目の前を列車が猛スピードで通過したとき，後ろから強い風で列車の方に吸い寄せ力が生じるという現象のことである。強い気流は，内に引き寄せる力を生むというのが，ベルヌーイ効果である。ドームに当たる太陽光線がドーム内の対流を生み，それによって，新鮮な空気が絶えず屋内に呼び込まれるという作用がジオデジック・ドームにはある。彼の作ったドームとしては，1967年の「モントリオール万博」（Montreal EXPO＝International Exposition）の米国館ドームがもっとも著名である（火災で焼失）。ちなみに，現在，多くの家庭で実用化されているユニット・バス（Unit Bath）はフラーの発想による[14]。

古代から，三角形は，人間の尊厳を象徴するものとして人々に意識されてい

13）「宇宙船地球号」の呼称の発明者は，フラーなのか，ケネス・ボールディング（Kenneth Boulding）なのかは，正確には分からない。ボールディングの「来るべき宇宙船地球号の経済学」の初出が，1966年（Boulding [1966]）であり，フラーが，「宇宙船地球号」のタイトルをつけた書物を執筆したのは1969年（Fuller [1969]）だったのだから，ボールディングに用語の創始者の栄誉が与えられるように見える。しかし，「宇宙船地球号」のタイトルの論文は発表しなかったものの，地球の有限なエネルギーを象徴するのに，フラーは，1930年代からそうしたニュアンスの言葉をすでに駆使していたので，やはり，フラーが創始者のように思われる。"Who Is Buckminster Fuller? Fuller's Influence," (http://www.bfi.org/fullers_influence.htm).

14） http://www.dnp.co.jp/museum/nmp/artscape/artwords/a_j/geodesic.html フラーは，ユニットバスの原型であるプレハブ式の浴室を1938年に特許申請した。しかし，それは，潜水艦の中の設備のような，あまりにも合理的，機械的なものであったので，米国人はそれに関心を示さなかった（柏木博「日常品の思想・ユニットバス」『日本経済新聞』1975年5月4日付）。日本では，1963年，ホテルニューオータニにTOTOが初めて設置した（http://www.arainodendo.com/konjaku/12bath_all.html）。

た。何種類もの三角形が多数集まれば集まるほど，堅固かつ巨大なドームを建設できることに，フラーは，人類が向かうべき哲学を夢見た。単独の要素で，モノが建設されるのではなく，多数の要素が上手く組み合わせれば組み合わせられるほど，建造物は巨大，かつ，堅固なものになる。そして，円という巨大な秩序が形成される。そこには，万物の共存と調和が視覚化されているのである。NAM が，フラーのピラドームを強調したのは，じつに，万物の共存を目指す自らの思想がそこに体現させられているからである。

フラーの出発点は，数学者であった。軍隊に従事した後，都市や住環境，エネルギーなどの課題を「最小限のもので，最大限の効果を得る」(More for Less) という点に求めた。これは，デザイン・建築界の「モダン・ムーブメント」(Modern Movement) に則ったもので，彼は，その課題を「ダイマクシオン」(Dymaxion) と名付けて追求した。フラーが1947年に発表したジオデジック・ドームは，その多面体構造はもとより，最小限の材料で作られ，しかも，輸送や組立が簡単なこのシステムは，建築界に衝撃を与えた。その構造は，様々な製品，博覧会，軍事施設，宇宙開発に応用されている。またフラーは，航空機の流体に倣った「ダイマクシオン・カー」(Dymaxion Car) や，居住環境のプロトタイプを目指し「ウィチタ・ハウス」(Wichita House) と命名された金属製住宅など，大量生産と合理性という数学者的な志向性を明確にしたデザインは，システマティック建築やプレハブ (prefabrication)，エコロジカル・ファシリティ (ecological facility) など，今日の都市化産業の先駆けとなった[15]。

フラーは，科学者，哲学者，数学者，建築家，宗教家，自然主義者，芸術家，文学者であった。彼の多くの科学上の貢献は，第２次世界大戦の悲劇に深く悲しみ，地球上に存在するすべての物質，生命の相互依存関係を重視し，そうした共存のありかを表現したものであった[16]。

15) http://www.cc.kurume-nct.ac.jp/LIB/kiyou/kiyou18-2/FUJITA.pdf

16) "A short page about Buckminster Fuller (Bucky)," (http://www.lsi.usp.br/usp/rod/bucky/buckminster _fuller. html). "Geodesic Domes," (http:// www. insite. com. br/ rodrigo/ bucky/ geodome.htm).

フラーの信奉者で，活動仲間の1人に日系二世のキヨシ・クロミヤ（Kiyoshi Kuromiya）という人がいた。彼は，奇しくも，2000年，自分の誕生日の5月9日に死去した。クロミヤは，世界的なエイズ（AIDS＝Acquired Immune Deficiency Syndrome）撲滅運動の指導者であった。クロミヤは，米国で市民権運動，反戦運動，ゲイ擁護運動で著名な活動家であった。彼が創設したエイズ撲滅運動の理論的・精神的支柱はフラーであった。このプロジェクトは，精神的癒し（therapy）をフラー理論に求めたのである。

クロミヤは，第2次世界大戦中の1943年5月9日に，在米日系人を隔離収容するキャンプ内で生まれた。それは，ワイオミング州（Wyoming : WY）のハート・マウンテン（Heart Mountain）のキャンプであった。彼は，ペンシルバニア大学（the University of Pennsylvania）在学中から市民権運動に邁進していた。1968年には，ベトナム（Vietnam）戦争で米国がナパーム弾（napalm）を使っているとして，抗議行動を組織した。1978年から1983年にかけて，彼はフラーと世界中を旅行した。彼らの世界行脚は，1983年のフラーの死によって終わった。フラー晩年の著作のいくつかは，クロミヤの協力を得たものである[17]。逆にいえば，フラーを利用したガーベイたちとは異なり，死ぬまで対抗文化運動とともに歩んだのが，フラーであった。

センター内に設置しているフラー型ピラミッドの効用について，ガーベイ・センター自身が，説明している（脚注9）より引用）。

① まず，ピラミッドは，構造的に堅固である。とくに，ジオデジック・ドームはそうである。

② 世界にはおびただしいエネルギーが交錯している。そうしたエネルギーが，人間の生活に大きな影響を与えている。とくに，電磁波の影響が大きい。実験の結果，ピラミッドの内部で生活することが，有害な電磁波から

17) http://www.actupny.org/reports/kiyoshi.html なかでも，次の2冊が著名である。
Critical Path, St. Martin's Press, 1981. *Cosmography : A Posthumous Scenario for the Future of Humanity*, Macmillan Publishing Company, 1992.

人の身体を防御するのにもっとも適切であることが判明している。水，土壌，動植物の生育などの面で，ピラミッド内部の生活環境は快適である。

③ 古代から，ピラミッドは宇宙のシンボルであった。それは，地球上の東西南北という方位（four cardinal points of the earth）を示し，万物を象形し，人間の体の4つの部位構造（頭，胴，手，足）を象徴する。

④ 各面は三角形から成り，神性の三位一体を象徴する。生・成長・死といった人生の3つの局面も表現する。

⑤ 米国建国の父たちが，ピラミッドを国璽の裏側に表現した。

⑥ 当センターのスローガンである，「健康」（health），「福祉」（well-being），「精神」（mind & spirit）の3目標をも三角形は示している。

ピラミッドは，NAM 運動の「シンボル」（象徴）であり，「コード」（記号）である。

おわりに

民衆のエネルギーに時代の進展を委ねるという指向を持つ NAM の出発点は，「対抗文化」であり，既成権力の否定であった。にもかかわらず，その運動は，ポピュリズムに傾斜するにつれて，ネオコンサーバティブ的な，むき出しの暴力に支えられる新たな権力を生み出してしまった。本稿ではまだ扱えなかったが，こうした，宗教の転生の経緯は分析されるべき重要な課題である。事実として，リフキン，パット・ロバートソン，そして，ガーベイを含む人脈が，米国社会の右傾化に強力な貢献をした。

米国の福音主義者たちは，「対抗文化」運動を自己の領域に取り込むことに成功した。これは，「文化適合」（cultural contextualization）と呼ばれている。教会音楽にロック（rock in roll）を採用し，非伝統的なスタイルで群衆を集める布教活動が組織されるようになった。小さかった教会が短時間で何万人もの会員を擁する大教会になることが頻繁に見られた。それは，経済の世界で，株式交換を通じる M&A によって，巨大企業が一夜で出現するという現象の宗

教版であった。企業合併と同じく，新しく巨大になった教会もまた，メディアを最大限に利用している。

マーケティング理論や社会学は，「教会成長理論」(Church Growth Theory) といった新しい学問のジャンルを見出した。若者の心を掴む新しい教会音楽は，「コンテンポラリー・ゴスペル」(contemporary gospel) や，「ワーシップ・ソング」(worship song) と呼ばれて，社会的に受け入れられ，若者の心を掴む手段となった。そうした音楽を販売するレコード会社が輩出している。宗教組織は，昔から多かれ少なかれ巨額の資金を吸収するシステムを持ってはいたが，それを明確なビジネスとして明示したのは，キリスト教右派である。新しい宗教が，「ニュービジネス」(new business) になった。そのニュービジネスに政治家たちが群がる。その構図が米国の対外戦争を支えている。にもかかわらず，宗教が聖域であるだけに，政・財・官・学の各界にまたがる強力な人脈の分析はいまだ進んでいない。

参考文献

Boulding, Kenneth Ewart [1966] "The Economics of the Coming Spaceship Earth" in *Environmental Quality in a Growing Economy*, ed. by Jarrett, H., Johns Hopkins University Press.

——— [1968] *Beyond Economics; essays on society, religion, and ethics*, University of Michigan Press. (公文俊平訳『経済学を超えて』竹内書店，1971年)。

Brown, Dan [2003] *The Da Vinci Code*, Doubleday. (越前敏弥訳『ダヴィンチ・コード』(上)(下)，角川書店，2004年)。

Crowley, Aleister [1926] *The Book of the Law, Church of Thelema*, Pasadena; rev. 93, 1975. (島 弘之・植松靖夫訳『法の書』国書刊行会，1984年)。

Fuller, R. Buckminster [1969] *Operating Manual for Spaceship Earth*, Princeton Architectural Press, September 1, 2000. (芹沢高志訳『宇宙船地球号の操縦マニュアル』ちくま学芸文庫，2000年)。

Gabel, Medard [1975] *Energy, Earth, and Everyone: a global energy strategy for spaceship Earth*, with a foreword by R. Buckminster Fuller, and an afterword by Stewart Brand, Straight Arrow Books, distributed by Simon and Schuster.